

第46回 医療研究全国集会in三重

サブスローガン 憲法生かし、ともに考えよう安全・安心の医療・介護・地域包括ケア

1日目 6/14(金)

会場

三重県総合文化センター
文化会館大ホール

記念講演 13:50~

「自治体戦略2040構想」は 地域医療・介護に何をもたらすか

岡田 知弘(京都大学(4月より京都橋大学予定)教授)



京都大学大学院経済学研究科教授
自治体問題研究所理事長
【プロフィール】1954年富山県生まれ。京都大学大学院経済学研究科博士後期課程退学。岐阜経済大学講師、助教授を経て、現在、京都大学大学院経済学研究科教授。4月より京都橋大学に着任予定。
【近著】『災害の時代に立ち向かう』(共著)自治体研究社、2016年／『TPP・FTAと公共政策の変質』(編著)自治体研究社、2017年／『「自治体戦略2040構想」と地方自治』(共著)自治体研究社、2019年

2日目 6/15(土)

分科会
9:30~16:00

会場

三重県総合文化センター
津市アストプラザ

申込番号 1

医療と福祉の実態を知り、医療・社会保障のあり方を考える ～いのちが守られる地域をつくろう～

子供から高齢者まで全世代に広がる貧困。医療・介護・福祉など現場はどこも人手不足。そして、都道府県を司令塔に動き出した医療・介護提供体制と保険制度一体の改革——。様々な困難に直面しつつも、患者・利用者・家族の願いに寄りそう職場・地域のチャレンジ、受療権・健康権保障に向けた実践、国や地方の政策動向、地域の実態・課題を明らかにするレポートを募集します!

申込番号 2

災害時の医療介護労働者の役割と地域づくり

2018年は、7月の西日本豪雨災害を始めとする各地の風水害や、6月の大坂府北部地震、9月の北海道胆振(いぶり)東部地震と立て続けに、震度6~7の大地震が起きるなど、改めて日本が災害列島であることを知らしめました。これからも大災害が予想される中で、私たち医療介護労働者の役割や課題を出し合い、災害に強い「地域づくり」について人権を守る立場から考えていきます。

申込番号 3

保健予防活動を地域住民とともに

～「健診」「地域づくり」「ヘルスプロモーション活動」の取り組み～

高齢になってしまっても住み続けられる地域をつくるために保健予防活動がますます重要になっています。地域での健康教室、安心して住み続けられるまちづくりなどの活動の交流をしましょう。また、「医療崩壊のウソとホント」「社会保障切り捨て日本への処方せん」などの著書や様々なTVにも出演をされている本田宏先生を助言者に招き、これまでの活動のヒントになるような学習も行います。

申込番号 4

看護ケアの質 ～専門性を高める～

専門(看護師)・認定(看護師)・特定能力認証制度と資格制度が専門分化されるなか、あらためて看護ケアとは何かが問われています。日々の業務の中で、看護を楽しむと感じていますか?みなさんが頑張っている日常の看護実践をもとに、看護ケアの質について一緒に考えていきましょう。日々の看護実践のレポートをお待ちしています。

申込番号 5

医療施設と在宅をつなぐケア ～多職種連携で患者を支える～

2025年に向けて医療・介護の提供体制が大きく再編成されています。医療施設にいても在宅にいても、患者さんが、安心して医療・介護が受けられるよう、私たちはど

記念講演・基調フォーラム・分科会のご案内

参加費

2日間参加…6,000円 1日のみ参加…3,000円

※日本医労連の組合員以外の一般参加者…500円 ※学生…無料

分科会レポート募集中

● 内容
分科会の問題提起に沿って日頃の実践をまとめてください。

● 提出先
第46回 医療研究全国集会組織委員会
※詳しくは日本医労連
ホームページ <http://www.ioren.or.jp/>

● 締切
5月12日(日)必着

医療研究集会の魅力は、集会2日目の分科会討論です。全国の経験を持ち寄り、テーマ別に「レポート」に基づく討論と交流を行います。

基調フォーラム 15:35~

これでええの?! 現場から安心な医療・介護を考える

コーディネーター

長友 薫輝(三重短期大学教授)

伊世 利子(NPOあした葉代表)

パネリスト

島田 晃秀(三重県医療保健部地域医療推進課長)

良雪 雅(いおうじ応急クリニック院長)

四方 哲(三重県立一志病院院長)

福本 美津子(ナーシングホームも代表)

域移行に関しては国が責任を持つべきであり、歴史的な背景から補助金を出し民間経営者が参入しやすいように安上がりな精神科医療政策を作り、今になり地域移行を推進し、病床削減に関しては民間経営任せというの余りにも無責任である。分科会ではこの閉塞的で病院主体の精神保健福祉施策はどうしたら改善出来るか、諸外国の改革も学び、一緒に考え運動の方向性を探る。

申込番号 15

在宅介護 ～在宅ケアの専門性とやりがい～

介護とは、在宅ケアの本質とは。多くの専門職の連携があって、利用者の「住み慣れた地域・家で暮らし続けられる」は実現します。「自助・互助」による介護が推し進められようとしている今こそ、専門職である私たちが在宅ケアの専門性とやりがいを発信していくことが重要になっています。日々の在宅ケアの実践をレポートにまとめ、分科会で専門性を深め、お互いのやりがいを共有しましょう。

申込番号 16

原発の現状と放射線従事者の役割、賃金労働条件を考える

東日本大震災で起きた原発問題で「原発ゼロと廃炉に向けた展望」について元日本大学准教授野口邦和先生をお招きし、それらの現状や知識を深めるとともに、医療現場で働く放射線従事者の賃金労働条件の問題を話し合い、改善に向けた話し合いを皆で討論しましょう。

申込番号 17

薬と社会 ～薬からみた医療・社会保障の問題を掘り起こそう!～

かかりつけ薬剤師、ポリファーマシー・残薬問題、薬葉連携、認知症・在宅医療における服薬支援、医薬品評価、薬害問題、経済的困難による中断や無料低額診療への対応等々、薬剤師活動や現場の問題について、実態や経験を持ち寄り、交流しましょう。積極的なレポート報告と参加をお待ちしております。

申込番号 18

わたしたちが大切にしたい保育 ～院内保育所のあり方～

結婚・出産後も働く女性が増え医療現場では「院内保育所」への期待とともに病児・夜間保育など求められることも増えています。しかし「院内保育所」といっても、統一された基準もなく働き方・保育内容も様々です。私たちが「院内保育所」の保育士として抱えている悩みや子どもにとって「より良い保育とは何か」を共有したいと思います。私たちは「保育」で繋がっています。保育を力にしていきましょう。共に考えましょう。みなさんぜひご参加ください。お待ちしております。

申込番号 19 動く分科会

「ほんとうの青空を」 ～四日市公害反対運動に学ぶ～

津市アストプラザ前(8:30集合・出発)→磯津港→平和町堤防→四日市港ポートビル→昼食→公害と環境未来館→近鉄四日市駅→(15:00帰着)→津市アストプラザ前(16:00帰着)

先着40名 動く分科会参加者は、

医療研参加費+別途5,000円(昼食代・入場料含む)